

児に対して悪影響を与えることは周知の事実である。また、これから妊娠する可能性のある女性全員が禁煙すれば胎児・乳児の死亡率が約 10%減少するという試算もある。全体的な禁煙への取り組みが、妊産婦及びその周囲のみならず未成年喫煙者や 20-30 歳代の女性喫煙者の禁煙行動へと発展することが期待できる。(KT)

#### コラム【低出生体重と成人期の生活習慣病】

妊娠中の喫煙が胎児に与える影響に関しては、流産率や死産率の上昇、常位胎盤早期剥離の発生など多くの悪影響が報告されているが、中でも出生体重の減少は広く知られている。我が国でも鈴木らは、低体重児出生率が非喫煙者では 3.6%、妊娠初期のみの喫煙者 6.1%、妊娠中期・末期のみの喫煙者 8.0%、妊娠中全経過通しての喫煙者 8.8%、妊娠中全経過喫煙で1日 1-5 本の喫煙者 4.4%、妊娠中全経過喫煙で1日 6-10 本の喫煙者 7.4%、妊娠中全経過喫煙で1日 11-15 本の喫煙者 15.5%、妊娠中全経過喫煙で1日 16 本以上の喫煙者 16.3%と報告している(1980 年)。多少小さく生まれてもすぐに追いつけば良いという考えは間違っている。英国の Barker らが先駆けとなり、1990 年以降、多くの国々から低出生体重と成人期の生活習慣病(高血圧、糖尿病、心筋梗塞等)発症との関連が報告されている。喫煙だけが低出生体重の原因となるものではないが、生活習慣病の Fetal origins hypothesis(胎児期起源仮説)は胎内での環境の重要性とともに、公衆衛生上、母子保健対策の重要性を説くものである。(KT)

|   |   |   |
|---|---|---|
| 白井市健康課 : マタニティコンサート+α   |   |   |
| 〒270-1492 千葉県白井市復 1123 (TEL) 047-497-3495、(FAX) 047-492-3033<br>(E-Mail) shiroi-0008@msd.biglobe.ne.jp (ホームページ) http://city.shiroi.chiba.jp   |   |   |
| 人口 50,000 人(出生数 350 人)<br>母子保健担当者: 事務・保健師・その他(看護師)、全保健師数 13 人(母子保健担当保健師数 4 人)<br>区分: 市町村  |   |   |
| 事業課題  | ■妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援   |   |
| 事業の背景   | プラネタリウム館や図書館の利用率向上と母親学級における胎教や妊婦のヒーリングなど<br>妊娠中の QOL の向上                      |   |
| 提案者   | その他(プラネタリウム館の職員)  |   |
| 事業のねらい<br>・目標   | 妊婦のヒーリング、子どもへの本の読み聞かせのすすめ、プラネタリウム館、<br>図書館の利用率向上<br>■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する |   |
| 数値目標  | なし  |   |
| 事業<br>内<br>容  | 対象  | 妊産婦・家族  |
|   | 実施期間  | 平成 11 年 1 月 ~ 平成 24 年 3 月 13 年計画  |
|   | 実施内容  | 母親学級(5回/1コース)の1回をマタニティコンサート+αとしてプラネタリウム館で実施。<br>無料で放映を行い、図書館司書による絵本の読み聞かせ、CD コンサートなどを実施。<br>子連れで参加できるように保育ボランティアを準備<br>母親学級以外の人(他市町村や以前の参加者など)の参加も OK<br>■既存事業の工夫 |
|   | 協力機関  | 地域のボランティア その他(プラネタリウム館、図書館)   |
|   | 住民参画状況  | なし  |
|   | 従事者内訳   | 保健師 その他(プラネタリウム解説員、図書館司書)   |
|   | 補助金・助成金   | なし  |
|   | キーワード   | 妊婦 連携 ヒーリング   |
| <p>**** コメント ****</p> <p>ここに注目!— 妊産婦の QOL の向上を目指した事業である。5 回コースの中で既存の施設(プラネタリウム、図書館)を利用しながら、それらの職員と協力して魅力的な内容を提供している。母親学級以外の人参加も認めていることは、地域の中で妊産婦の QOL 向上のコンセンサスを得る上で重要な視点である。他の地域への波及効果が期待できる。</p> <p>エビデンスは?— 広辞苑には胎教とは「妊婦が精神的な安定や修養につとめて胎児によい影響を与えようとすること」とある。これを「赤ちゃんに会えることを楽しみに、リラックスした気持ちで日々過ごし、赤ちゃんと一緒にという気持ちで音楽や本などを楽しむ」と解釈すれば、それぞれの地域で利用できる施設があると思われる。<br/>(KT)</p> |   |   |

## マタニティ・コンサート+α

# ♪(∇^\*) ♪

平成 11 年 2 月。白井市で始めてマタニティ・コンサートが開かれました。

マタニティ・コンサート+αができたきっかけは、プラネタリウム館の担当者がある都市(仙台市)のプラネタリウムで、マタニティ・コンサートを実施している事を知り、白井市でもぜひ行いたいと思った事です。その都市(仙台市)では、プラネタリウム単独で実施しているそうですが、白井市ではプラネタリウム館が図書館、文化会館などの複合施設であることや、対象者が健康課で実施している母親学級と同じであることから、プラネタリウム、図書館、健康課とが一緒に事業を始めよう！ということで企画されました。当初、各館は利用率の向上や普及を、健康課としては妊婦さんのリラクゼーションや胎教などを目的にあげました。

コンサートの開催回数は母親学級を年間 4 コース(1 コース 4 回)実施していたのに合わせて、年間 4 回、1 コースの 3 回目に実施しています。内容は、プラネタリウムの投映、星の誕生のお話、CD コンサート、絵本の読み聞かせなどです。

開催は午後 1 時 30 分からで、1 時を過ぎるとおなかの大きい妊婦さんや、赤ちゃんのお父さんやおじいちゃん、おばあちゃんになる人と一緒に家族連れで来ていたり、また、母親学級の卒業生がリピーターでお友だち連れで来ていたり、市外から車に乗って来ていたり、いろいろな人が集まってきます。平成 12 年度から子育て支援の一環で保育サービスを実施するようになったため、子どもづれで参加する人もいます。普段の星空 CD コンサートは大人向けですが、この日は騒がない子どもであれば入館できます(実際 2 歳くらいの子どもと入館し、プラネタリウム中に子どもがすやすや寝てしまって最後まで参加できた妊婦さんもいました)。

参加者の感想としては、よかったとする人がほとんどで、「リラックスできた。」という人がたくさんいました。その他、「普段余り関心のなかった星空ですが、音楽を聞いていると赤ちゃんもごろごろと動いて、すごく神秘的に思えて、気持ちよかったです。」「赤ちゃんが喜んでいました。」など妊婦さんに加え、おなかの赤ちゃんにも好評です。

また、参加人数にばらつきはあるものの徐々に増えており、事業として定着してきているようです。何かにつけ忙しい現代社会において、お母さんと赤ちゃん、それを取り巻く家族の「心の健康」をはぐくむ一助となるよう、関係部署との連携を深め、より良い事業になるよう取り組んでいきたいと考えています。



|   |  |   |
|---|--|---|
| <b>泉大津市健康推進課：周産期における予防対応システム</b>  |  |   |
| 〒595-0013 大阪府泉大津市宮町 2-25 (TEL) 0725-33-8181、(FAX) 0725-33-4543<br>E-Mail izumiotsuhokencentar@viola.ocn.ne.jp |  |   |
| 人口 77,611 人(出生数 972 人)<br>母子保健担当者:保健師、全保健師数 10 人 区分:市町村   |  |   |
| 事業課題  | ■妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援  |   |
| 事業の背景   | 母子保健計画立案にあたり、周産期における早期関わりを重視していきたいとの思いと、虐待防止ネットワークの予防システム立ち上げとが一致したため  |   |
| 提案者   | 母子保健担当者・その他(虐待ネットワーク)  |   |
| 事業のねらい・目標   | 妊娠中または、出産時に医療機関が、ハイリスク情報を持っている場合に、本人の了承をとったうえで、保健センター(周産期フォロー事務局)に連絡する。<br>担当者は、出来るだけ早期に関わりを開始し支援を行う。<br>この場合のハイリスクとは若年初産婦、精神疾患を持つ妊婦、過度に育児不安を持つ妊婦などがあげられる。 |   |
|   | ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める<br>■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する   |   |
| 数値目標  | なし   |   |
| 事業内容  | 対象   | 新生児・妊産婦   |
|   | 実施期間   | 平成 14 年 9 月 ~ 未定  |
|   | 実施内容   | 妊娠中または、出産時に医療機関が、ハイリスク情報を持っている場合に、本人の了承をとったうえで、保健センター(周産期フォロー事務局)に連絡する。<br>担当者は、出来るだけ早期に関わりを開始し支援を行う。<br>この場合のハイリスクとは若年初産婦、精神疾患を持つ妊婦、過度に育児不安を持つ妊婦などがあげられる。<br>■相談機能の強化 ■ネットワークの推進 |
|   | 協力機関   | 福祉事務所 病院  |
|   | 住民参画状況   | その他(母子保健計画のワーキングとして、住民参加あり)   |
|   | 従事者内訳  | 保健師 助産師 医師  |
|   | 補助金・助成金  | なし  |
|   | キーワード  | 妊娠 出産 ■虐待の発生予防  |

\*\*\*\* コメント \*\*\*\*

ここに注目！— 医療機関と保健センターの連携をもとにした妊婦支援事業である。医療機関からの情報提供によりハイリスク者と早期に関わりがもてることが特徴である。また、情報提供に関して本人の了承をとっていることは互いの理解を得る上で重要な点であり、個人情報保護の観点からも高く評価される。母子保健計画作成ワーキングへの住民参加が本事業に繋がったのか。

エビデンスは？— ハイリスク児はその後虐待に発展する頻度が高いとする報告が多くある(厚生科学研究:虐待の予防、早期発見および再発防止に向けた地域における連帯体制の構築に関する研究)。周産期は育児環境が捉えられる最初の時期であることから、この時期からの地域一体となった援助が必要である。(KT)

|  |   |  |
|--|---|--|
| <b>武蔵野市福祉保健部保健推進課</b> : ペンギン学級(就労妊婦のための母親学級)               |   |  |
| 〒180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町 4-8-10 (TEL) 0422-51-0700           |   |  |
| 母子保健担当者:事務・保健師・栄養士・歯科衛生士、全保健師数 6人(母子保健担当保健師数 6人)<br>区分:市町村 |   |  |
| 事業課題   | ■妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援   |  |
| 事業の背景  | 通常実施している母親学級(こうのとりの学級)は、平日の午後実施している。<br>そのため、就労妊婦は参加し難い状況であるため、土曜日実施のペンギン学級を企画した。                       |  |
| 提案者  | 母子保健担当者   |  |
| 事業のねらい・目標  | 出産後も仕事を続ける妊婦と、その配偶者を対象とし、<br>妊娠中の過ごし方、栄養の話の他妊娠と仕事、子育てと仕事など特徴を持たせている。<br><br>■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める |  |
| 数値目標   | なし  |  |
| 事業内容   | 対象  | 妊産婦・家族   |
|  | 実施期間  | 平成 11 年 4 月 ~ 未定   |
|  | 実施内容  | ・妊娠中の栄養<br>・お産の経過と呼吸法<br>・仕事と妊娠、出産<br>・育児実習<br>・保育園の話(保育士)<br><br>■既存事業の工夫 |
|  | 協力機関  | 保健センター・保健所 保育園 病院  |
|  | 住民参画状況  | なし   |
|  | 従事者内訳   | 保健師 栄養士 助産師 保育士  |
|  | 補助金・助成金   | なし   |
| キーワード  | 妊娠 出産   |  |

\*\*\*\* コメント \*\*\*\*

ここに注目！— 対象を就労妊婦に限った支援事業である。土曜日実施として、就労妊婦とその配偶者の参加を促している。また、指導内容に「仕事と妊娠、出産」を盛り込み、出産後も仕事を続ける妊婦を支援するよう工夫がなされている。

エビデンスは？— 厚生労働科学研究「就労女性の妊娠分娩および妊産婦健康診査のあり方に関する研究」では、妊娠中も就労していた女性は 44%に上ると報告している。女性の社会への関わり方が変わってきた昨今、妊娠や子育てにおけるニーズが多様化しつつあり、このような就労妊婦を対象にして取り組みを行うことは的を射た事業である。(KT)



|  |                             |   |
|--|-----------------------------|---|
| 福間町健康福祉総合センター(ふくとぴあ) : プレネイタル・ビジット事業   |                             |   |
| 〒811-3225 福岡県宗像郡福間町手光南 2-1-1 (TEL) 0940-34-3352<br>(ホームページ <a href="http://www.town.fukuma.fukuoka.jp/">http://www.town.fukuma.fukuoka.jp/</a> ) |                             |   |
| 人口 41,480 人(出生数 320 人) 全保健師数 6 人 区分:市町村  |                             |   |
| 事業課題   | ■妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援 |   |
| 事業のねらい・目標  | ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める |   |
| 数値目標   | なし                          |   |
| 事業内容   | 対象                          | 妊産婦   |
|  | 実施内容                        | 管内(宗像医師会)産婦人科主治医紹介状をもらって、管内小児科で保健指導を受ける。<br>手続き・紹介状は管内産婦人科、各市町村保健担当課にある。<br>管外の産婦人科にかかっている人は、医師会事務局へ相談する。 |
|  | 協力機関                        | その他(宗像医師会)  |
|  | 住民参画状況                      | 記入なし  |
|  | 従事者内訳                       | その他   |
|  | 補助金・助成金                     | その他   |
| 事業の評価  | 記入なし                        |   |
| 今後の課題  | 記入なし                        |   |
| キーワード  | 既存データ 保健指導                  |   |



\*\*\*\* コメント \*\*\*\*

ここに注目！— プレネイタルビジット事業である。産婦人科の紹介により妊娠中に小児科にて保健指導を受けることで、育児不安の解消と、生まれてくる子のかかりつけ医師の確保が期待できる。

エビデンスは？— 欧米などでは 20 年以上の実績がある。日本でも、プレネイタルビジットが育児不安の軽減に寄与するとの報告がされている(厚生労働科学研究:育児不安軽減のための小児科医の役割とプレネイタルビジットの評価に関する研究)。しかしながら、日本での事業の認識と普及はまだまだ不十分であり、このような取り組みが今後も推奨される。(KT)

コラム【プレネイタルビジット】

出産前小児保健指導ともいう。妊娠後期から出産直後に小児科医へ訪れ相談にのってもらい、不安があればそれに対応していくという制度のことである。厚生労働科学研究「育児不安軽減のための小児科医の役割とプレネイタルビジットの評価に関する研究」によると、育児中の親への調査で「かかりつけ医がいる」と答えたのは 84.7%、その中で小児科、内科／小児科が 81.7%を占めた。また、育児に対するアドバイスをかかりつけ医に望む母親が 20.4%であるのに対し、実際アドバイスを「いつも受けている」と答えたのは 4.8%に過ぎなかった(2002)。一方で、小児科医への調査ではプレネイタルビジットの認知度が未だ約 70%と低かった。この事業の早期の普及は母子保健の向上において極めて重要な課題である。(KT)

|   |  |  |
|---|--|--|
| <b>穂別町保健福祉課：妊産婦訪問指導連絡票</b>  |  |  |
| 〒054-0211 北海道勇払郡穂別町字穂別 81 番地 (TEL) 01454-5-3326、(FAX) 01454-7-5400  |  |  |
| 人口 3,813 人(出生数 23 人)<br>母子保健担当者:保健師、全保健師数 5 人(母子保健担当保健師数 1人) 区分:市町村 |  |  |
| 事業課題  | ■妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援  |  |
| 事業の背景   | 本町には産婦人科がなく不安があるということと、片道1時間以上をかけての受診の継続が困難であったことから実施していた医師委託による妊婦健診(1回/月)がH6で廃止された。それを受け、かかりつけ医師との連携を密にすることをねらいとしてH7から開始。 |  |
| 提案者   | その他(当時の上司や保健師)   |  |
| 事業のねらい・目標   | 医療機関との連携強化をはかり、タイムリーな支援を実施することで健やかな妊娠産褥期の経過を支援する<br>■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める<br>■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する               |  |
| 数値目標  | なし   |  |
| 事業内容  | 対象   | 妊産婦 家族   |
|   | 実施内容   | 方法:医療機関より健診結果や支援状況について情報が提供される<br>・前期・中期・後期・産後の計4回発行<br>・訪問指示があった場合、速やかに訪問を実施し、訪問結果について結果票を主治医へ送付<br>・情報提供1件につき¥3000を健診医療機関に支払う<br>■相談機能の強化 ■情報システムの構築 |
|   | 協力機関   | 病院   |
|   | 住民参画状況   | なし   |
|   | 従事者内訳  | 保健師 栄養士  |
| 補助金・助成金   | 市町村  |  |
| 事業の評価   | 妊娠経過中の情報がタイムリーに入る為、有所見に対する早期支援につながっている<br>■今後も継続する   |  |

|   |  |
|---|--|
| 今後の課題   | 産後の看護連絡がその後の育児支援に有効であることをより活用しやすくする為に、養育環境に関する項目についての情報提供の記載もしやすい様式へ変更。医療情報中心から育児支援にも有効なシステムになる様努めていく。 |
| キーワード   | 妊産婦 情報 連携  |
| <p>**** コメント ****</p> <p>ここに注目！— 医療機関からの情報提供による支援強化事業である。ハイリスクの場合だけでなく定期的（妊娠前期・中期・後期・産後）に連携をはかり、さらに訪問結果の情報が主治医に還元されるシステムとなっている。また、情報提供に対価を支払うよう工夫がされている。このように地域の置かれた状況に合わせて妊産婦の立場に立って事業が開始されている点は大いに評価できる。</p> <p>エビデンスは？— 乳幼児虐待に関する危険因子の多くは周産期に捉えることができるという報告がある（厚生科学研究：虐待の予防、早期発見および再発防止に向けた地域における連帯体制の構築に関する研究）。この時期から、地域での育児支援ネットワークを作ることが必要であり、出生数の多い地域においても参考となる事業例である。（KT）</p> |  |



|   |   |  |
|---|---|--|
| <b>三重県伊賀県民局 保健福祉部 : 伊賀地域周産期メンタルヘルス事業</b>  |   |  |
| 〒518-8533 三重県伊賀市四十九町 2802 (TEL) 0595-24-8060、(FAX) 0595-24-8085<br>(E-Mail) ghoken@pref.mie.jp (ホームページ) http://www.pref.mie.jp/GHOKEN/HP/ |   |  |
| 人口 184,239 人 (出生数 1,496 人)<br>母子保健担当者:保健師、 全保健師数 5 人(母子保健担当保健師数 1人) 区分:都道府県保健所  |   |  |
| 事業課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援</li> <li>■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減</li> </ul>  |  |
| 事業の背景   | <p>母子がよい周産期を過ごすということは、虐待等の予防、ひいては思春期での様々な問題の発生予防につながっていくのではないかと考える。</p> <p>そのために、リスクのある母子に関しては、周産期からの支援が不可欠である。</p>                                       |  |
| 提案者   | 母子保健担当者 その他 (心理判定員)   |  |
| 事業のねらい・目標   | <p>リスクのある母子への支援を早期から行うことにより、その後の家族(特に母子)の各ライフステージにおけるより健康な生活への支援効果が期待できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する</li> </ul> |  |
| 数値目標  | なし  |  |
| 事業内容  | 対象  | 新生児 乳児 妊産婦 家族  |
|   | 実施期間  | 平成 15 年 4 月 ~ 平成 18 年 3 月 3 年計画  |
|   | 実施内容  | <p>大学、地域の産婦人科、精神科との連携により、事業に同意を得た周産期妊産婦に訪問調査を行い、その結果、科学的根拠に基づきハイリスク対象者に対して支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ネットワークの推進</li> <li>■ケアシステムの構築</li> <li>■人材育成の強化(研修等)</li> <li>■調査・研究</li> </ul> |
|   | 協力機関  | 保健センター・保健所 大学・研究機関 病院  |
|   | 住民参画状況  | 実施主体側として   |
|   | 従事者内訳   | 保健師 助産師 医師   |
|   | 補助金・助成金   | なし   |
|   | キーワード   | <p>周産期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■虐待の発生予防</li> </ul>  |

\*\*\*\* コメント \*\*\*\*

ここに注目！— 周産期におけるメンタルヘルスについて、大学、地域の産婦人科、精神科と連携した支援を行っている。県・市町村単独でなく、大学や地域の医療機関と連携している点が評価される。

エビデンスは？— 妊娠中の母親は、精神的に不安定となり、うつ病になりやすいことが明らかになってきた。妊娠中のメンタルヘルスについては、産後に比べて不明な点も多く、検討が求められている。（【これからの周産期医療】周産期におけるメンタルヘルス 金子一史(名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター), 村瀬聡美, 野邑健二, 本城秀次 現代医学(0433-3047)51 巻1号 Page29-33(2003.07)) (KS)

| 岐阜県中濃地域保健所 郡上センター : ハイリスク妊産婦等連絡体制整備事業   |   |  |      |                  |
|---|---|--|------|------------------|
| 〒501-4232 岐阜県郡上市八幡町初音 1727-2 郡上総合庁舎<br>(TEL) 0575-67-1111、(FAX) 0575-65-6974<br>(E-Mail) c22707@pref.gifu.lg.jp |   |  |      |                  |
| 人口 48,734 人(出生数 387 人)<br>母子保健担当者:保健師、全保健師数 4 人(母子保健担当保健師数 1人) 区分:都道府県保健所                                       |   |  |      |                  |
| 事業課題  | <b>■妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援</b><br><b>■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減</b>  |  |      |                  |
| 事業の背景   | 郡上管内における周産期死亡率が高い(H8~12年の5年間平均 郡上管内8.2 全国6.2)こと、妊産婦健診の結果、異常ある者の割合が高い(平成11年度の妊産婦健診結果が要指導又は要医療の割合:県14.23%、郡上管内19.19%)ことから、ハイリスク妊産婦への地域での支援が必要と考えられる。                        |  |      |                  |
| 提案者   | 母子保健担当者   |  |      |                  |
| 事業のねらい・目標   | ハイリスク妊娠や出産は、それに由来する児への影響が大きく、また妊産婦自身の疾患や生活に対する不安も大きい。そこで、郡上市・中濃地域保健所郡上センターが医療機関からハイリスク妊産婦についての情報を受け、家庭訪問及び指導等を行うことで早期からの援助を行う。<br><b>■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</b> |  |      |                  |
| 数値目標  | なし  |  |      |                  |
| 事業内容  | 対象  | 新生児 妊産婦  | 実施期間 | 平成 14 年 9 月 ~ 未定 |
|   | 実施内容  | 下記に該当する妊産婦について、医療機関から地域(郡上市保健センター・保健所)に連絡を行い、家庭訪問及び指導等を実施する。<br>①妊娠中毒症、貧血、糖尿病、切迫流産に該当する者で医療機関で指を行っても症状が改善せず、地域での生活指導・家族指導等が必要な者<br>②多胎・若年・外国人妊産婦で健康管理が困難、あるいは妊娠・出産・育児による不安が強い等、地域でのフォローが必要と思われる者<br><b>■ネットワークの推進 ■情報システムの構築</b> |      |                  |
|   | 協力機関  | 保健センター・保健所 病院  |      |                  |
|   | 住民参画状況  | なし   |      |                  |
|   | 従事者内訳   | 保健師 助産師  |      |                  |

|  |  |    |
|--|--|----|
|  | 補助金・助成金  | なし |
| 事業の評価  | 郡上市保健センターは当事業で行った訪問・指導等について、半期ごとに報告書により保健所へ報告する。保健所は当事業について1年に1回以上関係者連絡会議を行い、連絡体制の見直しを図る。  |    |
| 今後の課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・未熟児サポート事業による医療機関からの連絡や、子どもの養育支援を目的とした情報提供との連絡体制の整理。</li> <li>・ハイリスクの要因となる若年妊娠など思春期に関わる問題への対応。</li> </ul> |    |
| キーワード  | <p>妊娠 出産 子ども 育児不安</p> <p>■地域の子育て支援の充実 ■病気や障害のある子どもへの支援</p>   |    |
| <p>**** コメント ****</p> <p>ここに注目！— 医療機関から、ハイリスク妊婦の情報提供を受け、家庭訪問・指導を実施している。多胎・若年・外国人妊婦など、健康管理が困難な例や、妊娠合併症に対して医療機関だけでは生活指導が困難な例に対して、早期からの援助を行っている点は、より進んだ妊娠管理として評価できる。</p> <p>エビデンスは？— 外国人妊婦が増加しているという地域も増えており、医療機関でのコミュニケーションも難しい場合が多い。実際に家庭訪問などを行うことで、生活の実態に沿った指導、妊娠管理を行うことが可能かもしれない。(KS)</p> |  |    |

|   |  |  |
|---|--|--|
| <b>岩沼市 民生部保健課 : ママサポート(産婦・新生児訪問における産後うつ・強度の育児不安のスクリーニング調査並びにその支援)</b>   |  |  |
| 〒989-2480 宮城県岩沼市桜 1-6-20 (TEL) 0223-22-1111 (FAX) 0223-24-0897<br>(E-Mail) hokenshi@city.iwanuma.miyagi.jp  |  |  |
| 人口 42,000 人(出生数 480 人)<br>母子保健担当者:保健師・栄養士、全保健師数 10 人(母子保健担当保健師数 10 人) 区分:市町村  |  |  |
| 事業課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援</li> <li>■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減</li> </ul>   |  |
| 事業の背景   | 虐待と疑われる事例やいわゆる「グレーゾーン」特に母子関係に起因していると思われる親子への関わりが急増したことで、発症率が10～15%と高頻度である産後うつや強度の育児不安をスクリーニングし育児支援していくことは、虐待予防の視点からも大変意義のあることと考えた。   |  |
| 提案者   | 母子保健担当者  |  |
| 事業のねらい・目標   | <p>母の心の安定は、母子の愛着形成や児の健やかな発育発達に不可欠であるとともに、更には虐待の予防につながるものである。そこで、安心と自信をもって育児に取り組めるよう、出産後早期に母の抱える心の問題に焦点をあて、メンタルヘルスの向上をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</li> </ul> |  |
| 数値目標  | なし   |  |
| 事業内容  | 対象   | 母親 妊産婦   |
|   | 実施期間   | 平成 14 年 4 月 ～ 平成 26 年 3 月 13 年計画   |
|   | 実施内容   | <p>産婦・新生児訪問時に、ルーチンな指導の後、EPDS等スケールを用いてスクリーニング調査を行う。ハイリスク者には保健師・助産師・臨床心理士等スタッフでカンファレンスを重ねながら、再訪問指導や電話相談を行い、タイムリー且つ母の気持ちに沿った関わりを心がけている。また、再度EPDSを実施し、改善を確認している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■既存事業の工夫</li> <li>■相談機能の強化</li> <li>■ネットワークの推進</li> <li>■ケアシステムの構築</li> <li>■人材育成の強化(研修等)</li> <li>■調査・研究</li> </ul> |
|   | 協力機関   | 保健所 児童相談所 病院 診療所 地域のボランティア 子育て支援センター   |
|   | 住民参画状況   | なし   |
|   | 従事者内訳  | 保健師 助産師 医師 その他(臨床心理士・小児精神科医師)  |
|   | 補助金・助成金  | その他(市町村単独事業)   |
|   | 事業の評価  | <p>EPDSの得点の推移並びに、3カ月児健診にてアンケート調査を行い、経時的評価を行っている。EPDSハイリスク者は初産婦に多く、更に高得点を示す傾向が見られたが、点数とフォロー期間は必ずしも比例しない。高得点であっても、介入後その大多数は3カ月児健診のころには改善される傾向が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■今後も継続する</li> </ul>   |
| 今後の課題   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1、訪問を希望しない層の実態把握と、潜在的なハイリスク者へのフォロー体制の強化</li> <li>2、EPDSハイリスク者の次回の妊娠、出産、育児のフォロー体制の整備</li> </ol>  |  |
| キーワード   | 妊娠 出産 子ども 育児不安 ■虐待の発生予防  |  |
| <p>**** コメント ****</p> <p>ここに注目！— 分娩後の産婦・新生児訪問時に EPDS 等のスケールを用いて産後うつ・強度の育児不安のスクリーニング事業。訪問指導や電話相談など、適切な介入を行い、その後、再度得点を測定し、アンケートも併せ、経時的な評価を行っている。スクリーニングとその後フォローがうまく組み合わせられており、評価できる。一方で、介入の効果の評価については専門家のアドバイスを受けながら行うと、より科学的な検証ができるでしょう。</p> <p>エビデンスは？— 産後うつ病の発症率は国内外の報告で約10%と言われている。また、産後発症は早期に起こるという報告もあり、乳幼児健診(4ヶ月)よりも早い事業が必要であると言われている。(厚生省の指標 51 巻 9 号(2004 年)より)(K S)</p> |  |  |

# 岩沼市産婦・新生児訪問フローチャート「ママサポート」

- ① 産婦・新生児訪問カルテに沿い情報提供と育児・保健指導
- ② EPDS（エジンバラ産後うつ病スケール）
- ③ Bonding
- ④ ハイリスクシート ※②③④産婦による自己記入式
- ⑤ 「がんばりすぎないあなたになるう」パンフレット説明

EPDS 8点以下

終了

EPDS 8点以下  
質問10が陽性点

EPDS 8点以下で  
気になったケース

EPDS 9点以上・その他の要因有  
★心理、精神的な病歴 ★サポート体制  
★ライフイベント ★育児不安 等

健康増進課へ連絡 → 番22-1111 担当 係長・母子保健担当3人73

|              |    |                |    |                    |
|--------------|----|----------------|----|--------------------|
| パターン1 継続訪問   | 誰が | 助産師/保健師/共同/その他 | いつ | 緊急/1週間後/1ヵ月後<br>随時 |
| パターン2 電話フォロー | 誰が | 助産師            | いつ | 緊急/1週間後/1ヶ月後<br>随時 |

定例新生児訪問・ママサポート打ち合わせ → 経過決定  
今後の対応についての再検討 / 情報の共有 / 高得点者のチェック

## 継続訪問

助産師/保健師/共同  
1~2回の訪問で改善が予測される者 → 助産師  
EPDS点数増・症状悪化 → 保健師・共同

2ヶ月児健診（医療機関）

3ヶ月児健診 母のチェック  
（気分・食欲・疲労・睡眠・家族の協力 等）

保健師の継続訪問

すくすく教室（乳児相談）  
ママの相談

あそびの広場・親と子のふれあい教室

8ヶ月児健診（医療機関）

ちびっこ相談（乳幼児相談）

赤ちゃんホットライン

- 乳幼児精神発達精密健康診査・中央地域子どもセンター
- 専門医・子ども総合センター・クリニック・医療機関
- 心の相談・精神保健福祉相談
- 心理士の相談

スタッフ会議・事例検討会

※定例打ち合わせ時に随時開催

|  |   |   |
|--|---|---|
| <b>築館町役場 健康福祉課 : 母子健康手帳交付時の個別相談</b>  |   |   |
| 〒987-2293 宮城県栗原郡築館町薬師一丁目 7-1 (TEL) 0228-22-1111、(FAX) 0228-23-6818<br>(E-Mail) kenpuku@town.tsukidate.miyagi.jp (ホームページ) http://www.town.tsukidate.miyagi.jp |   |   |
| 人口 15,918 人(出生数 128 人)<br>母子保健担当者:事務・保健師・栄養士、全保健師数 6 人(母子保健担当保健師数 3 人) 区分:市町村  |   |   |
| 事業課題   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援</li> <li>■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減</li> <li>■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ</li> </ul> |   |
| 事業の背景  | <p>① 育児に対する不安が強い母親が増えている中、妊婦が持つ不安や悩みを聞き、安心して出産が迎えられるようにする。</p> <p>② 妊婦の身体状況、心理状況、生活環境を把握し、その後の育児支援や保健指導につなげる。</p>                               |   |
| 提案者  | 母子保健担当者   |   |
| 事業のねらい・目標  | <p>①早期に信頼関係をつくり町の相談窓口を知ってもらう。</p> <p>②妊婦の心理状況や生活環境等を知り、抱えている問題を把握する②喫煙や食事等の生活習慣の問題について自ら気づき改善できるようにする。</p> <p>■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める</p>   |   |
| 数値目標   | なし  |   |
| 事業内容   | 対象  | 妊産婦 家族  |
|  | 実施期間  | 平成 14 年 4 月 ~ 平成 19 年 3 月 5 年計画   |
|  | 実施内容  | <p>保健師、栄養士による個別指導。保健師は相談表を改訂し妊婦の心理面(妊娠の受けとめ方、子育てについての考え)や家族の状況(協力体制、DV の問題)についても把握できるようにした。</p> <p>ハイリスクをチェックし次の新生児訪問につなげるようにしている。</p> <p>産後うつ病について知識の普及。</p> <p>■既存事業の工夫 ■相談機能の強化 ■個別支援や集団支援のツール開発</p> |
|  | 住民参画状況  | なし  |
|  | 従事者内訳   | 保健師 栄養士   |
|  | 補助金・助成金   | なし  |

|  |   |
|--|---|
| 事業の評価  | <p>相談表から妊婦が持つ問題を把握する。ハイリスク妊婦の把握数とフォローした数。妊婦喫煙率の低下。</p> <p>妊娠、出産、育児に関する相談件数の増加(電話、訪問等による)。保健師の相談により問題解決できた数。</p>                           |
| 今後の課題  | <p>ハイリスク妊婦をスタッフ間で共有すること。相談表やハイリスクチェックの妥当性。</p> <p>働く妊婦の労働環境の把握(産休、食生活、喫煙、労働で困ること)。</p> <p>町に必要なサービスの模索(育児ボランティア等)。女性の喫煙状況の追跡把握(育児期まで)</p> |
| キーワード  | <p>妊娠 出産 子ども 育児不安 母子保健 栄養 運動 食生活 歯</p> <p>■地域の子育て支援の充実 ■虐待の発生予防</p> <p>■妊娠中からの母子歯科保健の推進</p>   |
| <p>**** コメント ****</p> <p>ここに注目！— 母子健康手帳交付時に、保健師・栄養士による個別相談を町で行っている。喫煙や食事等、生活習慣の問題について改善を図っており、妊娠合併症の予防、管理に貢献していると評価できる。</p> <p>エビデンスは？— 若年女性の喫煙率が増加しており、喫煙が低出生体重児のリスクであることを考えれば、早期からの指導は重要である。喫煙率の低下を評価指標としており、この結果は重要である。(KS)</p> |   |



| 泉南市立保健センター：母子手帳交付時の相談・情報提供  |  |  |
|---|--|--|
| 〒590-0504 大阪府泉南市信達市場 1584-1 (TEL) 0724-82-7615、(FAX) 0724-85-1621<br>(E-Mail) hokencenter@city.sennan.osaka.jp (ホームページ) http://www.city.sennan.osaka.jp/~hokencenter/ |  |  |
| 人口 65,677 人(出生数 751 人)<br>母子保健担当者:保健師、全保健師数 13 人(母子保健担当保健師数 4 人) 区分:市町村   |  |  |
| 事業課題  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援</li> <li>■小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備</li> <li>■子どもの心の安らかな発達促進と育児不安の軽減</li> </ul>                        |  |
| 事業の背景   | <p>これまで市民課で妊娠届、母子手帳の交付を行ってきたが、事務手続以上のことができず、ハイリスク妊婦の把握や具体的なサービス紹介ができなかった。</p> <p>また、4ヶ月健診等で初めて保健センターを知ることになり、早期から相談機関として広く周知する機会が必要だった。</p>                              |  |
| 提案者   | 母子保健担当者  |  |
| 事業のねらい・目標   | <ul style="list-style-type: none"> <li>①身近な相談機関として、保健センターが広く周知される</li> <li>②ハイリスク妊婦を早期に把握し、支援する</li> <li>③母子保健サービスを紹介する機会とする</li> </ul> <p>■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する</p> |  |
| 数値目標  | あり   |  |
| 事業内容  | 対象   | 妊産婦  |
|   | 実施期間   | 平成 15 年 10 月 ~ 未定  |
|   | 実施内容   | <p>妊娠届時に初経産、就業の有無、家族を含めた喫煙状況などの項目を設けたアンケートに記入してもらう。</p> <p>その回答内容に応じて必要な情報提供を行う。</p> <p>例えば夫が喫煙するに該当すれば、SIDS パンフレットと禁煙支援外来の提供など。</p> <p>また母子手帳に市内の相談機関一覧を掲載した、「お助けダイヤル」を貼り、案内する。</p> <p>■既存事業の工夫    ■相談機能の強化</p> |
|   | 住民参画状況   | なし   |
|   | 従事者内訳  | 保健師  |
|   | 補助金・助成金  | 市町村  |
|   | キーワード  | 母子手帳、相談  |